



令和3年12月1日

多発する自然災害から子供たちを守るために ～教員のタマゴにオンラインで防災講座を実施～

国土交通省では、近年多発する大規模災害をふまえ、教育委員会・学校等と連携・協力して防災教育の支援に係る取組を強化しています。

そこで、教員を目指す長崎大学教育学部学生に対し、防災・減災に関する深い知見・知識を身につけてもらい、教職に就いた際、生徒が主体的に自然災害から命を守る行動を身につける教育を展開できるようになることを目的とし、防災講座を長崎大学教育学部、国土交通省長崎河川国道事務所及び気象庁長崎地方気象台が協働し、防災教育プログラムを実施します。

【オンライン防災講座】

開催日：12月3日（金） 10：30より配信開始

内 容：「防災気象情報と地震・津波に関する情報について」長崎地方気象台
「火山防災について」・「防災教育について」長崎河川国道事務所
「大人の『防災知』をどのように『自分ごと』にしていくか」長崎大学
※外部への配信は行いません。

■取材について

学生の受講状況の取材については、下記に記載の長崎大学教育学部にお問い合わせ下さい。

■問い合わせ先：

（防災教育に関すること）

国土交通省 長崎河川国道事務所 調査第一課長 最所 敏明

電話（代表） 095-839-9211

気象庁 長崎地方気象台 水害対策気象官 平田 勝貴

電話（代表） 095-811-4862

（学校への取材に関すること）

長崎大学 教育学部 准教授 井手 弘人

電話（研究室直通） 095-819-2316

E-mail: hirotoi@nagasaki-u.ac.jp

学校での防災教育は多くの取り組み事例がありますが、教員養成課程向けに実践する防災教育プログラムは国内でも数が少なく、必修科目として必ず学生が履修するものとしては、履修規模も含め、全国に例をみない取り組みです。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインによる講座を実施します。

【参考：教員養成プログラムとしての防災教育の視点】

長崎大学教育学部 准教授 井手 弘人

授業は大学1年生対象の「初等生活科教育」の一環で行います。

「生活科」は小学校低学年に限定した教科で、多様な教科を横断し、自分の生活圏を主体的に理解し、生活を自ら豊かにしていく児童を育成することを目標としています。

大人がもつ防災知識を単に「伝達」するのではなく、いかに「自分ごと」として子どもが状況を判断し行動することへつなげていくか、が防災教育上の大きな課題になっています。教員養成課程に入学してまだ日の浅い1年生には、学校教育における「知識」と「経験・行動」との関係を整理させつつ、防災教育を通して「教える」―「学ぶ」の関係をデザインする方法を学んでもらいます。

- 防災マップづくり（まち歩き）については、災害リスクのある場所を調べ、避難所の位置、避難する時に増水していたら危険な箇所等を確認し、防災マップを作成します。
- グループごとのフィールドワークは、それぞれの学生の日程で、学生たちが自ら活動します。特定の日時の枠で活動するわけではありませんので、この点、ご了承下さい。また、新型コロナウイルス感染防止のため、感染状況や大学より発出される授業方針次第では、フィールドワークを中止させることもあります。
- 配信ビデオなどのオンライン学習コンテンツは、長崎大学で使っているオンラインプラットフォーム「LACS」上で稼働するようになっています。IDとパスワードで管理されており、外部公開は行っていません。これに関する取材・お問い合わせ等は、井手までご連絡下さい。

【今後のスケジュール】

- ・ 12月3日（金）：配信開始（長崎大学主体的学習促進支援システム（LACS）上にて配信）
 - ・ 12月6日（月）～：大学周辺フィールドワーク（まち歩き、グループ別による時間外学習）
 - ・ 12月17日（金）：防災マップおよび小学校低学年のための防災授業案ポスターセッション
- ※ 防災講座および防災マップの作成を通じた教材研究をもとに、小学校低学年を対象とした「防災」の授業を構想し、ポスター発表形式のプレゼンテーションを行います。